

令和7年度 数学科 授業改善推進プラン

大田区立大森第一中学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・各学年で文字式や方程式などの基礎・基本の徹底を目指し、小テスト、単元テスト、課題学習を行い、反復練習を重視している。高校入試問題で基礎問題の正解を目指すことを目標に、今後も継続していく。
- ・関数や図形でのICT機器を利用し、具体的な図や表示を活用して「分かる授業」を展開できている。

(2) 課題

- ・基礎的な数理処理はある程度身についているが、発展課題に対して、既習である「どの解法」を利用すれば解決できるかの見通しがもてていない。授業では、言語活動を一層重視するとともに、「式・表・図・グラフ」を有効に活用し解法の過程を大切にしていく。
- ・題意や説明を読み解く力が弱いいため、教科書の読み取りも含め具体的かつ丁寧に簡潔な言葉を用いて繰り返し読み解くようにする。

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率（経年比較）

	令和7年度結果	令和6年度結果	令和5年度結果
第1学年	基礎、活用ともに目標値を下回っているが、特に活用において低い。領域ではデータの活用において達成度が目標値を7.9ポイント下回っており、特に課題が見られる。		
第2学年	基礎、活用ともに目標値を下回っている。活用においては、関数分野において目標値を24.2ポイント下回っており、特に課題が見られる。	基礎、活用ともに目標値を下回っている。思考判断表現と主体的に学習に取り組む態度の観点において、目標値を10ポイント程度下回っており、特に課題が見られる。	
第3学年	基礎、活用ともに目標値を下回っているが、特に活用において低い。領域では図形において達成度が目標値を14.9ポイント下回っており、図形の性質への理解や証明への課題が見られる。	基礎、活用ともに目標値を下回っている。観点別では、思考判断表現の観点において、目標値を10ポイント以上下回っており、大きな課題がある。特にデータの活用の正答率が低く、問題文を読み解き、思考を巡らせることに弱さがみられる。 (第2学年時)	全般的に低いが、分数を始め計算技能は比較的良好いが小数が弱い。単位や割合の基礎知識が弱い。図形や比例反比例についても基礎知識が理解できていない。グラフや資料の読み取りも不十分である。 (第1学年時)

(2) 分析(観点別)

① 第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
基本的な計算や、小数・分数の計算や文字と式、面積や体積など、図形領域の計算においては目標値を上回る、または近い数値となっている。一方でデータの活用で、最頻値や中央値の読み取りなど、与えられた資料から必要な情報を取り出すグラフの読み取りに大きな課題がある。	ほぼすべての項目において、目標値を大きく下回っている。特にデータの活用など、与えられた資料から必要な情報を取り出すことや、答えを求めるためにその情報をどのように活用するかなど、思考する力に課題がある。	データなし

② 第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
基本的な計算問題や、関数・図形領域のほぼ全てにおいて目標値を下回っている。数学的用語の理解の不十分さから文章の意味を読み取れず、説明することに課題がある。	ほぼ全ての領域において目標値を下回っている。とくにデータの分布の傾向の説明において課題が見られる。グラフの見方など基本的な知識の不足と他のデータと比較し思考する力に課題がある。	データなし

③ 第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
基本的な計算問題や関数、図形の領域、ほぼ全てにおいて目標値を下回っている。用語の理解が不十分のため、問題が読み取れず、数学的な用語を適切に使い説明することに課題がある。	目標値を大きく下回っている。問題の文章の読み取りができず、問われている内容に適切に回答することが難しい。また論理的に説明や記述することに課題がある。	データなし

3 授業改善のポイント（観点別）

（1）第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
正負の数の計算や文字式の計算など、基本的な計算能力の定着を図る。そのために、毎授業の始めに復習する時間を設けることや、定期的に習熟度を確認する小テストを設け、生徒の意欲の向上を図りながら定着を目指す。	文章を粘り強く読み解く力を育てるとともに、数学的な用語を正しく理解することができるようにする。また読み取った情報を図や表などにまとめたり、理解したことを表現する機会を多く設けるようにしていく。	基礎的な力については、繰り返し演習に取り組む中で、自身の成長が感じられるような指導を行う。また他者に説明したり、説明を聞く態度を褒め、意欲的に活動に参加できるようにしていく。

（2）第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
基本的な計算を中心とした復習を毎授業に取り入れ、反復することで定着を図る。また各領域において、確実に定着が必要な内容に焦点を当て、繰り返し取り組ませるようにする。	文章を読み解くために必要な数学的な用語の理解の定着を図る。そして文章から読み取った情報を図や表を使ってまとめる作業を通して、読み取る力を育む。また互いの考えを説明し合う活動を取り入れ、数学的な用語を用いて説明する力を育む。	前向きに取り組む態度を大切にして、肯定感を育めるように声かけを行う。また互いに学び合う姿勢を大切にして、分からないことを聞く姿勢や分かったことを積極的に周りに説明できるようにさせる。

（3）第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
計算の反復練習により、基本的な計算力の定着を図ることで、様々な問題に対する解決力をつける。図形の基本用語や定理も繰り返し使用する機会を増やす。1，2年の内容もスパイラル学習で、意識的に基本的事項の定着と技能の習得を目指す。	正しく数学的な用語を利用して表現できるようにする。また、課題の文章を読み取る能力を高めるために、必要な条件に印をつけて読み取る習慣をつける。スモールステップで基本を使って思考を広げていく課題に取り組む。	自分の誤答の理由を分析し、次の学習に活かすための手立てを考え、振り返りができるようにする。基本の計算や知識の定着に関しては、繰り返し根気強く学習に取り組めるように、課題を提示していく。